

令和8年度 看護職員教育計画
看護職員能力開発プログラムVer.2

令和8年3月5日

到達目標		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
レベールⅠ	看護実践に必要な基本的能力を習得する	15日(水) IVナースプログラム①(80分) 毎週研修(注釈) (80分) I-3, 4	1日(金) リフレッシュ研修 13日(水) 報告・連絡・相談(45分) II-1, 2 聴取の看護(45分) I-3, 4, III-1	3日(水) 食事介助(90分) I-4	1日(水) IVナースプログラム② DVD・演習 (90分) I-3, 4	2日(水) リフレッシュ (80分) V 看護技術発表会に向けて(15分) VI-1	7日(水) 看護倫理 (80分) II-1, 2	11日(水) IVナースプログラム③ CVポート-CVポート穿刺と換針(80分) I-3	2日(水) 災害医療・看護概論(80分) 災害とは 災害発生時の院内の動き IV-5	20日(水) 看護技術発表会(120分) I-3, 4	9日(月) ラダーレベル修了判定		
	OUT	・マニュアルに沿った看護基本技術を習得できる ・6Rにそって正確に確認できる ・点検を省略し、患者へ与えることができる ・点検管理ができる	【報告・連絡・相談】 ・SRMを活用して報告できる ・患者の状況を正確に報告できる ・自分の状況を報告できる 【夜勤の看護】 ・夜勤に必要な看護実践力がわかる ・夜勤に備えた過ごし方がわかる	・フォロー看護師とともに臨床評価ができる ・マニュアルに沿って食事介助ができる ・患者の状況に合わせて食事中断の判断ができる	・実践経験チェックリスト(点検時標準的)の算知から施設にそってマニュアルを用いて実施できる ・フォロー看護師の指導のもと患者に点検時標準が実施できる ・技術チェック合格後は、一人で手前に基づいて実施できる	・臨床におけるおそれられない看護場面を自分で実践できる ・指導のもとテーマに沿って課題レポートをまとめることができる	・臨床における備忘について意図的にかンファレンスに参加できる ・かンファレンスで自己の考えを述べることができる	・実践経験チェックリスト(CVポート)の算知から施設にそってマニュアルを用いて実施できる ・フォロー看護師の指導のもと患者に報告できる ・技術チェック合格後は、一人で手前に基づいて実施できる	・日頃から災害に備えて自己の備えができる ・災害に備えた環境整備ができる ・アクションカードに沿って行動できる	・発表会での学びを看護実践に活かすことができる			
レベールⅡ	①根拠に基づいた看護を実践する ②先輩と共に学習する		27日(水) フィジカルアセスメント(90分) I-1	17日(水) ケーススタディ (80分) I-4	15日(水) メンタルヘルズ研修(80分) III-1	8日(火)9日(水) 急変時対応(80分) I-1~4, III-1		9日(水) ケーススタディ発表会(120分) I-4	9日(月) ラダーレベル修了判定				
	OUT		・患者を観察し正確な情報をもとにフィジカルアセスメントが行える(病棟で研修・看護の事例に基づき技術チェック) ・アセスメントをもとに患者の状況の変化に気づき、リーダーに報告できる	・日頃の看護を振り返り、エビデンスに基づいた看護を意図的に実践できる ・エビデンスに基づいた看護実践をケーススタディとして事例を還元し、看護実践ができる ・看護実践をケーススタディとしてまとめることができる	・看護チーム内でのメンバーとしての自己の役割が理解できる ・指導を受けながら看護チームや病棟での後・委員会活動におけるメンバーシップが発揮できる	・患者の状況から急変のリスクについてアセスメントができる ・患者の急変時に他看護師へ応援を依頼できる ・先輩看護師とともに急変の発生に対応できる ・自分の病棟で起こりうる急変のリスクについて考えられる		・発表会での学びを看護実践に活かすことができる ・ケーススタディを見直し、課題をテーマとして討議し、意見をまとめ、提出できる					
レベールⅢ	①個別性を重視した看護を実践する ②看護実践者として、先輩に支援的役割を果たせる		29日(水) フリセプターについて(80分) V-2	24日(水) 看護の質と評価(80分) I-1, 2, 4, II, IV-1~3	22日(水) 意思決定支援(80分) I-1, 2, 4 II-1, 2	9月~12月院内留学(1日)	18日(水) 意思決定支援研修後の自己の取り組み(80分) I-1, 2, 4 II-1, 2	9日(月) ラダーレベル修了判定					
	OUT		・フリセプターとしての自己の役割を再認識できる ・フリセプターとして意図的に新人看護師を支援できる ・新人看護師の支援について定期的に振り返りを行える	・自部署の看護の質の評価と自部署の課題について看護師長、副看護師長とともに考えられる ・自部署の看護の質を高めるための自己の役割について考え、実践できる ・指導のもと課題レポートとしてまとめることができる	・日頃の意思決定支援について振り返ることができる ・指導を受けながら意思決定支援ができる ・意思決定支援に関するかンファレンスを多発し、実践できる ・かンファレンス内容を看護計画に反映し、実践できる	・自施設の病院機能における自部署の役割や期待、そのための業務体制・教育体制を構築できる ・自部署と他部署の看護実践や業務体制・教育体制の違いと理由を理解できる ・自部署の看護の質向上のための自己の役割について考え、実践できる	・実践した意思決定支援を振り返り、自己の役割を再認識できる ・意思決定支援に関する自部署の課題について考えられる ・意思決定支援についてチームで取り組むことができる						
レベールⅣ	①後輩の学習を支援する ②チームリーダーとしての役割行動がとれる				8日(水) 看護倫理・ジョブセンの四分表を活用した態度表明(80分) I, II 文獻検討発表会に向けて(15分) IV, VI	30日(水) 「リーダーシップ」とは(80分) IV-1~5	28日(水) 自分のキャリアについて考えよう！(80分) V-1	23日(水) 文獻検討発表会(90分) IV, VI	9日(月) ラダーレベル修了判定				
	OUT				【看護倫理】 ・ジョブセンの四分表を活用し、意図的に他部署かンファレンスを行える ・四分表を用いたかンファレンスにより、患者のQOLを考えた意思決定支援の方策を考えられる ・かンファレンス内容を看護計画に反映し、実践できる 【文獻検討】 ・文獻検討の意義、方法が理解できる ・発表会に向け計画的に取り組むことができる	・リーダーとしての自己の役割を再認識できる ・指導を受けながらチームや後・委員会活動でリーダーシップを発揮できる	・自分のキャリア形成について具体的に考えられる ・身近な看護管理者である副看護師長のキャリア形成のきっかけや業務、マインドに関心をもち、サポートできる	・日頃の看護を振り返り、根拠に基づいた看護を実践できる					
レベールⅤ前期	専門性の発揮、管理・教育的役割モデルとなり、研究への取り組みができる			10日(水) QC活動のすすめ方(80分) III-1, 2 IV-1~5	10日(水) QC活動のすすめ方(80分) III-1, 2 IV-1~5	3日(月)~8日(水) 幹部任用候補者定例研修 カラーニング(目的時間) IV-1~5 看護師長シャドウイング研修(12/24まで)の間(計1日)	14日(水) 「看護研究とは」(80分) VI-1	16日(水) 自部署の看護サービス向上させるための取り組み(80分) IV-1~5	9日(月) ラダーレベル修了判定				
	OUT			・看護QC活動のテーマについて検討し、選定できる ・QCの達成を促し、ながら計画的に自部署の看護の質向上のためにQC活動に取り組むことができる	・看護師長のシャドウイングを行い、看護管理の実態を知る ・看護師長、副看護師長と対し自部署の課題を考え、課題解決に向けてリーダーシップを発揮できる	・看護研究に取り組む意義や目的が理解できる ・看護研究のテーマについて検討し、選定できる	・自部署の看護の質向上のために自分が取り組んだQC活動について発表できる ・指導のもと課題レポートとしてまとめることができる						
レベールⅤ後期					29日(水) 「研究の進め方」(80分) VI-1	16日(水) ナラティブ(80分) II-1, 2	21日(水) 「研究の進め方」(80分) VI-1	27日(水) 看護研究発表会(80分) VI-1	9日(月) ラダーレベル修了判定				
	OUT			・指導のもと看護研究に計画的に取り組むことができる ・看護研究を事例としてまとめ、提出できる ・看護研究を学会等で発表できる	・自施設の経営状況について理解し、看護師長、副看護師長と共に自部署の課題を把握できる ・自部署に関連する施設基準や取得できる加算など病院経営改善に向けた改善案を提案し、実行できる	・ナラティブを通じ日頃の看護を振り返り、自己の看護観を言語化できる ・看護観を自部署で共有する機会を持つ	・看護研究の発表に向けて準備ができる ・効果的なプレゼンテーションの留意点が理解できる	・発表会での学びを看護実践に活かすことができる					
専門分野研修(時間内): エントリー制研修 ※各研修には、定員枠があります													
専門分野	専門看護(ジェネラリスト対象) ペテランの「勘」を武器にする 急変を防ぐフィジカルアセスメント			30日(火) 「呼吸」(80分)	14日(火) 「急論」(80分)		9日(火) 「発熱」(80分)						